

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 002	提案機関名 農業振興課
要望問題名 コマツナ及びホウレンソウの生育・生産予測技術の開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 本県におけるコマツナ及びホウレンソウの生産は、それぞれ450ha及び700haの作付面積があり、生産量も全国3位及び8位を占めるなど、極めて重要な野菜として位置づけられている。そのため、いずれも国及び県の野菜価格安定事業の対象作物に指定していきされており、その安定生産は行政的にも重要な課題となっている。 県内では、コマツナは完全に周年栽培され、ホウレンソウについても7～8月の盛夏期を除いて栽培されているが、いずれも播種から収穫までの栽培期間が短いことから、計画的な生産を目指して作付けが行われているが、季節ごとの天候に左右され、作柄は安定していない。 そこで、これらの2品目について、積算温度と積算日射量及び降雨量を主要な環境要因とし、これに品種別の早晩性を遺伝的要素とした季節ごとの生育予測技術を開発し、標準的な気象条件における生育予測システムとして開発していただきたい。これにより、変動幅の大きな両品目の卸売市場価格の安定化が可能となり、野菜価格安定事業の運営にも寄与するものと期待される。	
解決希望年限	① 1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ご指摘のとおり、気象変動が野菜生産・出荷に及ぼす影響は大きく、その要因解析は、食の安全・安心を考える上で重要な課題と考えられますが、作期が比較的短い作物については、個々の要因変動の影響が大きく作用する点で、生育予測が難しいことが予想されます。 一方、農業技術センター普及部では、コマツナ・ホウレンソウについて各播種期に対応した収穫期について現地試験の結果を取りまとめています。また研究部門においては、コマツナ、ホウレンソウを含む多数の作物に関して種々の試験が実施されてきましたが、それらに対応する二十年近くの気象データが保存され、それらに対応させることが可能ですので、取りまとめ情報提供します。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			